

2011年3月11日に発生いたしました「東日本大震災」により被災されました皆さまには心よりお見舞い申し上げます。
また、皆さまの一日も早い安心の確保と被災地の復興をお祈り申し上げます。

2011年4月26日
株式会社アクセル

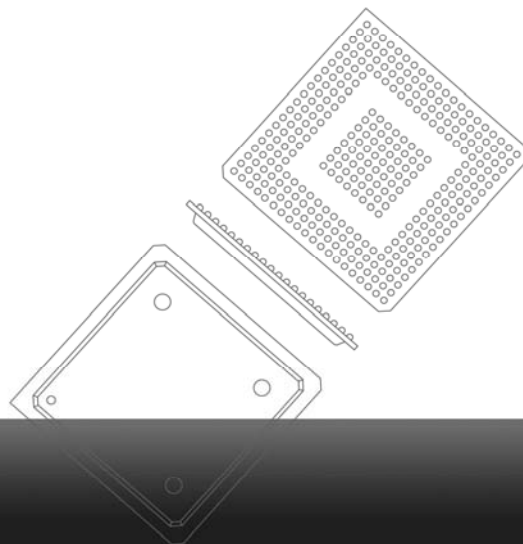
証券コード 6730

株式会社アクセル

2011年3月期(第16期) 決算説明会資料

代表取締役社長 佐々木 譲
開示担当取締役 千代 進弘

2011年4月26日



遊技機器市場の動向

国内経済の長期低迷、低料金営業の普及等による遊技ホールの収益性の低下
 定番機種・大型機種などの一部機種に需要が集中 → 総じて新台販売は低調
 APEC開催に伴う新台の入替え自粛
 遊技機器メーカーのコスト削減施策 → 基板レベルでのリユース本格化
 (AG301に影響)

パチスロ機の人気回復傾向

低料金営業の定着等により遊技人口が2年連続増加

組み込み機器市場の動向

海外経済の回復等に牽引され各種組み込み機器の需要が増加

第16期における業績修正の要因について

市場規模と当社グラフィックスLSIの販売個数分析

	当初計画	9.15修正	3.23修正	(単位:万) 実績
市場規模分析:				
遊技機器販売台数	380 -50	330 -	330 -	330
パチンコ機	300	250	250	250
パチスロ機	80	80	80	80
AM-GLSI販売個数	245 -85	160 -18	142 -	142
リユース・在庫調整	—	55 +15	70 -	70

※市場規模(遊技機器年間販売台数)及びリユース・在庫調整については、業績予想の基礎となる市場規模分析の想定数値です。

※AM-GLSIは遊技機器市場向けグラフィックスLSIを意味する。

(単位:百万円)

	当初計画		9.15修正		3.23修正		第16期実績	
売上高	15,000	100%	9,130	100%	8,190	100%	8,199	100%
売上原価	7,020	47%	4,150	45%	3,740	46%	3,742	46%
売上総利益	7,980	53%	4,980	55%	4,450	54%	4,456	54%
販売費及び 一般管理費	3,240	22%	3,010	33%	2,900	35%	2,888	35%
営業利益	4,740	32%	1,970	22%	1,550	19%	1,568	19%
経常利益	4,750	32%	1,980	22%	1,560	19%	1,584	19%
当期純利益	2,930	20%	1,280	14%	1,020	12%	1,043	13%

(単位:百万円)

	第15期	売上比	第16期	売上比	増減額	増減率
売上高	15,495	100%	8,199	100%	△7,295	△47%
売上原価	6,621	43%	3,742	46%	△2,879	△43%
売上総利益	8,873	57%	4,456	54%	△4,416	△50%
販売費及び 一般管理費	2,662	17%	2,888	35%	225	8%
営業利益	6,211	40%	1,568	19%	△4,642	△75%
経常利益	6,224	40%	1,584	19%	△4,640	△75%
当期純利益	3,840	25%	1,043	13%	△2,797	△73%

第16期末受注残：2,146百万円

売上高8,199百万円(7,295百万円減収)の主な要因

AMグラフィックスLSI: 7,345百万円(5,547百万円減)

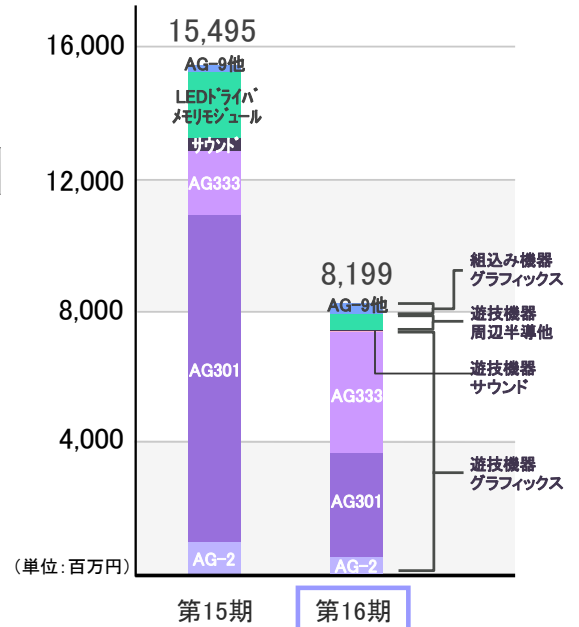
- ・販売個数: 262万個 → 142万個
市場の縮小、リユース、在庫調整、顧客製造動向
- ・AG333比率(13%→43%)※個数ベース

その他: 854百万円(1,747百万円減)

- ・サウンドLSI: AG333のサウンド機能取り込み、顧客の需要動向により減少
- ・LEDドライバLSI、メモリモジュール: 特定顧客の需要動向により減少
- ・EMグラフィックスLSI: 海外経済の改善に伴い在庫調整が一巡し販売増加

粗利率	第15期	第16期
AMグラフィックスLSI	60%	56%
その他	45%	36%
合計	57%	54%

売上高(2期比較)



第16期 販売費及び一般管理費(対前期比)

	第15期	構成比	第16期	構成比	増減額	増減率
販売費及び一般管理費	2,662	100%	2,888	100%	225	8%
人件費	532	20%	536	19%	4	1%
研究開発費	1,586	60%	1,767	61%	181	11%
その他	544	20%	584	20%	40	7%

研究開発費内訳	第15期	構成比	第16期	構成比	増減額	増減率
研究開発費 総額	1,586	100%	1,767	100%	181	11%
人件費	598	38%	628	36%	30	5%
試作開発費	463	29%	557	32%	94	20%
その他開発費	154	10%	207	12%	53	34%
その他	369	23%	373	21%	3	1%

※第16期の主な試作開発: AG401、AG11他

従業員の推移	第15期末	第16期末
従業員数	70名	73名
研究開発	40名	43名
品質保証	1名	1名
営業	8名	8名
管理他	21名	21名

研究開発人員	第15期末	第16期末
半導体(LSI)設計開発	13名	14名
ソフトウェア開発	18名	20名
システム開発	9名	9名
合計	40名	43名

(単位:百万円)

	第15期末	構成比	第16期末	構成比	増減率
流動資産	15,178	96%	12,398	93%	△18%
現金及び預金	9,309	59%	6,428	48%	△31%
有価証券	3,999	25%	3,999	30%	0%
売掛金	1,342	8%	853	6%	△36%
その他	526	3%	1,117	8%	112%
固定資産	672	4%	934	7%	39%
資産合計	15,850	100%	13,332	100%	△16%
流動負債	2,288	14%	819	6%	△64%
固定負債	-	-	11	0%	-
負債合計	2,288	14%	831	6%	△64%
純資産合計	13,562	86%	12,501	94%	△8%
負債・純資産合計	15,850	100%	13,332	100%	△16%

(単位:百万円)

	第15期	第16期
現金及び現金同等物の期首残高	11,796	13,309
現金及び現金同等物増加(△減少)額	1,512	△2,881
営業キャッシュ・フロー	3,825	△344
投資キャッシュ・フロー	△276	△428
財務キャッシュ・フロー	△2,036	△2,108
現金及び現金同等物の期末残高	13,309	10,427

営業キャッシュ・フロー関係

税引前純利益 : 1,582百万円
 減価償却費の計上 : 225百万円
 売上債権の減少 : 489百万円
 仕入債務の減少 : △293百万円
 未払消費税等の減少 : △252百万円
 法人税等の支払額 : △2,290百万円

投資キャッシュ・フロー関係

開発用ソフト等の取得による支出 : △44百万円
 有形固定資産の取得等による支出 : △55百万円
 関係会社株式の取得による支出 : △250百万円

財務キャッシュ・フロー関係

配当金の支払額 : △2,107百万円

遊技機器市場の動向

国内経済の長期低迷、低料金営業の普及等による遊技ホールの収益性の低下
 定番機種・大型機種などの一部機種に需要が集中

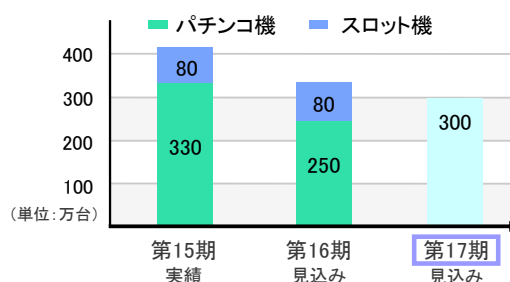
当社製品を含む遊技機器構成部品のリユース(再使用) → AG301に影響
 東日本大震災の影響

- ・東北地方沿岸部所在ホールの被災
- ・節電対応によるホールの営業時間短縮等
- ・一部地域における遊技機器の入替自粛の動き
- ・被災地に製造拠点のある部材部品の供給停滞

第17期業績予想の前提

遊技機器年間販売台数 → 300万台
 「AG301」のリユース → 60万個程度

遊技機器年間販売台数の当社想定



※遊技機器の年間販売台数は、調査機関の公表データと当社分析による数字です。

(単位:百万円)

	第16期	売上比	第17期計画	売上比	増減額	増減率
売上高	8,199	100%	8,200	100%	0	0%
売上原価	3,742	46%	3,900	48%	157	4%
売上総利益	4,456	54%	4,300	52%	△156	△4%
販売費及び一般管理費	2,888	35%	3,100	38%	211	7%
営業利益	1,568	19%	1,200	15%	△368	△24%
経常利益	1,584	19%	1,200	15%	△384	△24%
当期純利益	1,043	13%	800	10%	△243	△23%

第17期 売上高の分析(単体計画)

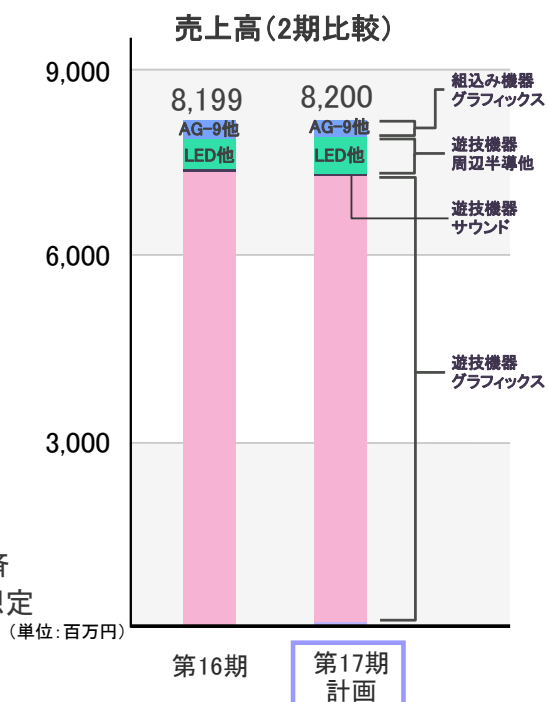
売上高8,200百万円を計画

AMグラフィックスLSI: 7,280百万円(65百万円減)

- ・販売個数: 142万個 → 132万個
- ・「AG-4」シリーズの量産開始(第1四半期より)
通期で25%強の販売を見込む
(AG333は30%弱) ※個数ベース

その他: 920百万円(65百万円増)

- ・サウンドLSI: 統合化製品のサウンド機能取り込み、顧客需要動向により減少
- ・LEDドライバLSI: 特定顧客の需要増加を見込む
- ・EMグラフィックス: 回復傾向を示していたものの経済状況を考慮し、若干の需要減を想定



(単位:百万円)

	第16期	構成比	第17期	構成比	増減額	増減率
販売費及び一般管理費	2,888	100%	3,100	100%	211	7%
人件費	536	19%	520	17%	△16	△3%
研究開発費	1,767	61%	1,930	62%	162	9%
その他	584	20%	650	21%	65	11%

(単位:百万円)

研究開発費内訳	第16期	構成比	第17期	構成比	増減額	増減率
研究開発費 総額	1,767	100%	1,930	100%	162	9%
人件費	628	36%	630	33%	1	0%
試作開発費	557	32%	360	19%	△197	△35%
その他開発費	207	12%	370	19%	162	78%
その他	373	21%	570	30%	196	53%

※第17期の主な試作開発：AG11他

(単位:百万円)

	第16期2Q	売上比	第17期2Q	売上比	増減額	増減率
売上高	3,950	100%	3,700	100%	△250	△6%
売上原価	1,810	46%	1,700	46%	△110	△6%
売上総利益	2,139	54%	2,000	54%	△139	△7%
販売費及び一般管理費	1,484	38%	1,500	41%	15	1%
営業利益	655	17%	500	14%	△155	△24%
経常利益	662	17%	500	14%	△162	△25%
当期純利益	428	11%	340	9%	△88	△21%

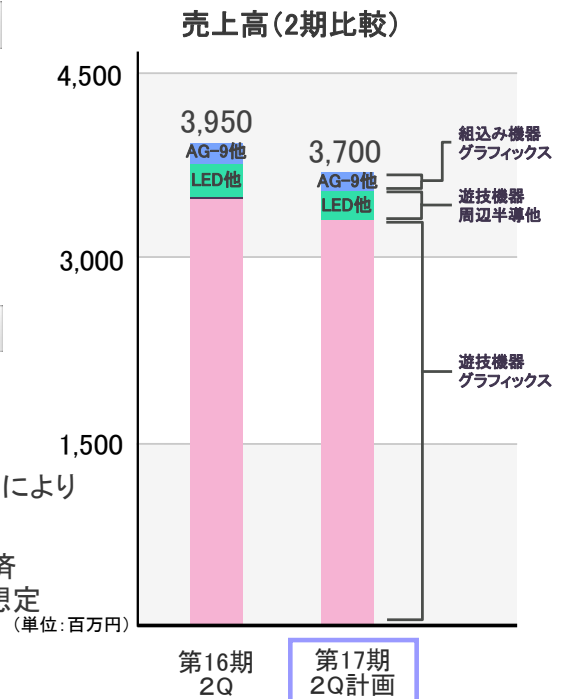
2Q累計売上高3,700百万円を計画

AMグラフィックスLSI: 3,320百万円(171百万円減)

- ・販売個数 : 67万個 → 63万個
- ・「AG-4」シリーズの量産開始(第1四半期より)
2Q累計で20%弱の販売を見込む
(AG333は25%程度) ※個数ベース

その他: 380百万円(78百万円減)

- ・サウンドLSI : 統合化製品のサウンド機能取り込み、顧客需要動向により減少
- ・LEDドライバLSI : 2Q累計では特定顧客の需要動向により減少を見込む
- ・EMグラフィックス : 回復傾向を示していたものの経済状況を考慮し、若干の需要減を想定



第17期第2四半期(累計) 販管費(単体計画)

	第16期2Q	構成比	第17期2Q	構成比	増減額	増減率
販売費及び一般管理費	1,484	100%	1,500	100%	15	1%
人件費	249	17%	255	17%	5	2%
研究開発費	927	62%	925	62%	△2	△0%
その他	308	21%	320	21%	11	4%

研究開発費内訳	第16期2Q	構成比	第17期2Q	構成比	増減額	増減率
研究開発費 総額	927	100%	925	100%	△2	△0%
人件費	276	30%	300	32%	23	9%
試作開発費	361	39%	190	21%	△171	△47%
その他開発費	117	13%	165	18%	47	40%
その他	171	19%	270	29%	98	57%

※第17期2Q(累計)の主な試作開発 : AG11他

配当額の決定方針

株主還元については配当を基本として実施

業績に連動した配当の実施

(配当性向主義:算定の基礎は単体ベース → 配当性向50%)

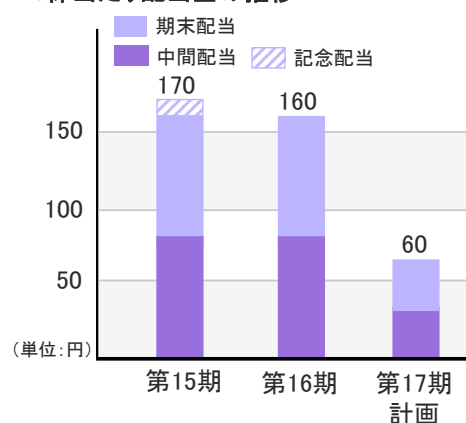
剰余金等の状況(販管費の3年分は内部留保)を勘案した上で、過年度の配当額を考慮した安定配当の実施

配当実施状況及び計画

	第15期	第16期	第17期計画
1株当たり配当額	170円	160円	60円
中間配当	80円	80円	30円
期末配当	80円	80円	30円
記念配当	10円 [※]	—	—
配当性向	55%	190%	93%

※東証上場記念配当を実施

1株当たり配当金の推移



第17期 連結損益計算書(通期計画)

	単体		連結		(単位:百万円)	
	売上比		売上比		増減額	増減率
売上高	8,200	100%	8,200	100%	0	0%
売上原価	3,900	48%	3,900	48%	0	0%
売上総利益	4,300	52%	4,300	52%	0	0%
販売費及び一般管理費	3,100	38%	3,350	41%	250	8%
営業利益	1,200	15%	950	12%	△250	△21%
経常利益	1,200	15%	950	12%	△250	△21%
当期純利益	800	10%	550	7%	△250	△31%

連結対象となるニューゾーン社の平成24年3月期の業績予想におきましては、将来の成長に向けた研究開発費が先行して計上される計画となっております。

(単位:百万円)

	単体	売上比	連結	売上比	増減額	増減率
売上高	3,700	100%	3,700	100%	0	0%
売上原価	1,700	46%	1,700	46%	0	0%
売上総利益	2,000	54%	2,000	54%	0	0%
販売費及び一般管理費	1,500	41%	1,700	46%	200	13%
営業利益	500	14%	300	8%	△200	△40%
経常利益	500	14%	300	8%	△200	△40%
当期純利益	340	9%	180	5%	△160	△47%

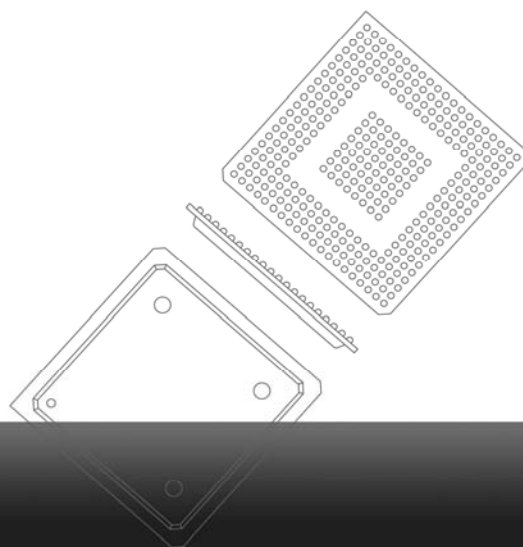
連結対象となるニューゾーン社の平成24年3月期の業績予想におきましては、将来の成長に向けた研究開発費が先行して計上される計画となっております。

証券コード 6730

株式会社アクセル

今後の成長戦略

代表取締役社長 佐々木 譲



今後の遊技機器市場向け製品戦略

グラフィックスLSIとしての基本機能の向上

- よりゲーム性を演出する多様なエフェクト機能
多彩な表現を可能にする高速描画等

顧客のシステムコスト低減

- 統合化チップの推進(基板サイズ縮小、共通部品の削減等)
圧縮性能の更なる向上(メモリコストの削減)
システムを意識した製品開発

顧客サイドの開発効率化

- より高度な開発支援環境を提供
画像、サウンドに加えて、LEDツールを含めた開発環境の更なる充実



遊技機器1台当たりに対する技術的貢献の拡大

※YAMAHA社との訴訟については、特段の進展はありません。
引き続き、裁判で当社 の正当性を主張して行く方針です。

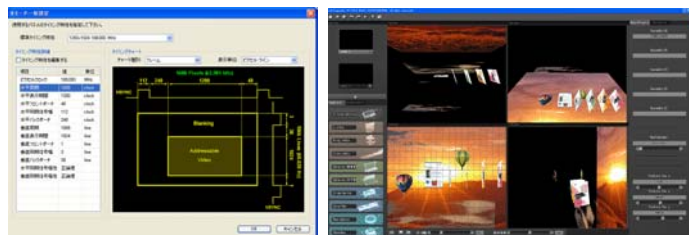
組み込み機器市場の今後の戦略

組み込み機器市場向け製品戦略

AG-9シリーズの拡販：着実な営業活動の継続

AG10 の量産：ターゲット顧客(POS、ATM等)向けの拡販活動を推進

- ・ボードベンダーとの関係強化(オムロン社、DUX社、DFI社等)
- ・技術サポートや保守の充実
- ・オーサリングツールの開発



(左) 開発環境、オーサリングツールの画面イメージ

海外展開を見据えた次世代製品の開発:

「AG11」の開発(インテル社との共同マーケティング等)

株式会社ニューゾーンの設立

業態：プロジェクトの発掘からプロットプランの作成、遂行、管理

→ 専門分野ごとに最適な連携企業を選定し、外部リソースの活用による規模感のある事業展開

第1弾プロジェクトとしてデジタル簡易無線に向けた製品を開発

デジタル簡易無線の特徴

デジタル化によりデータ伝送の用途が拡大(2008年8月からデジタル化開始)

PHS・携帯電話等のような毎月の使用料が掛からない(低コストにより市場拡大)

使用場所・用途が自由、直接の通信範囲が長距離

開発中の製品

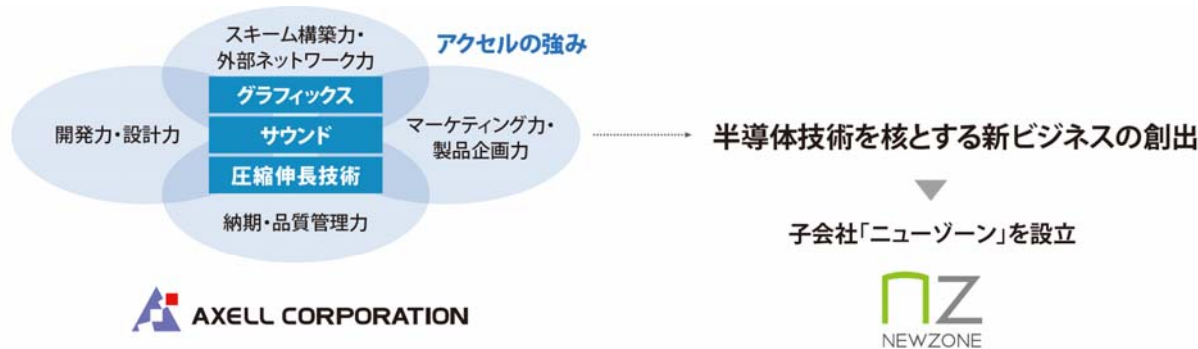
高圧縮Codec内蔵グラフィックスLSI

高圧縮・低ビットレートで鮮明な画像伝送

変復調・RF LSI

変復調部と高周波部のLSI化(従来の無線機より安価な組み込み向け無線機を実現)

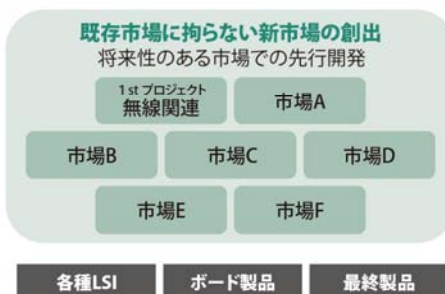
アクセルグループの事業戦略



アクセルの事業領域



ニューゾーンの事業領域



中期的な成長イメージ

成長イメージは遊技機器の年間販売台数が300万台程度となることを前提として策定

今後の成長ドライバー

遊技機器市場

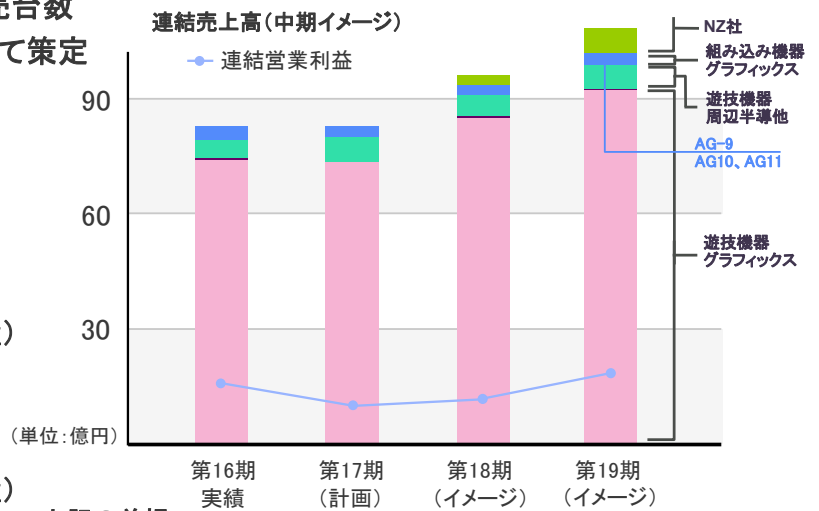
- 「AG-4」シリーズへの移行
- LEDドライバLSIの販売拡大
- 「AG-5」の開発(第20期以降の量産)

組み込み機器市場

- x86系CPU対応「AG10」の販売
- 「AG11」の開発(第19期以降の量産)

子会社による新規事業開拓

- デジタル簡易無線向け製品展開
- その他分野への取り組み



上記の前提

AM-GLSI 販売数量	142万台	132万台	145万台	152万台
リユース	70万台	60万台	50万台	40万台
遊技機器 年間販売数	330万台	300万台	300万台	300万台

本資料に記載の予想数値を含む将来に係る情報は、現時点における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。なお、本資料の一部または全部を弊社の許可なく、転載・複写することのないようお願い申し上げます。